

# 出張管理におけるテクノロジーと課題解決法の最前線

2026年2月26日

株式会社トップレップ

Confidential





# トップレップとは

株式会社トップレップ<TOPPANグループ>は、出張管理（BTM）・出張費に特化したBPOサービス、ソリューション提供をおこなう、日本唯一の「BTM専門コンサルティング会社」です。



TOPREP CORP

\*\*\*\*\*

株式会社トップレップ

西ヶ花 竜希 (Nishigahana Ryuki)

トラベルコンサルティング事業部

- BTMコンサルティング
- 出張リスク管理ソリューション
- 災害対策ソリューション

# トップレップとは

## BTM領域

- 出張コスト削減支援
- サプライヤ交渉選定
  - ・航空会社
  - ・ホテル
  - ・旅行代理店
- 出張手配のDX化
- 出張データ管理システム  
TOPREP Eye
- 出張者位置情報管理システム
- CO2排出削減支援



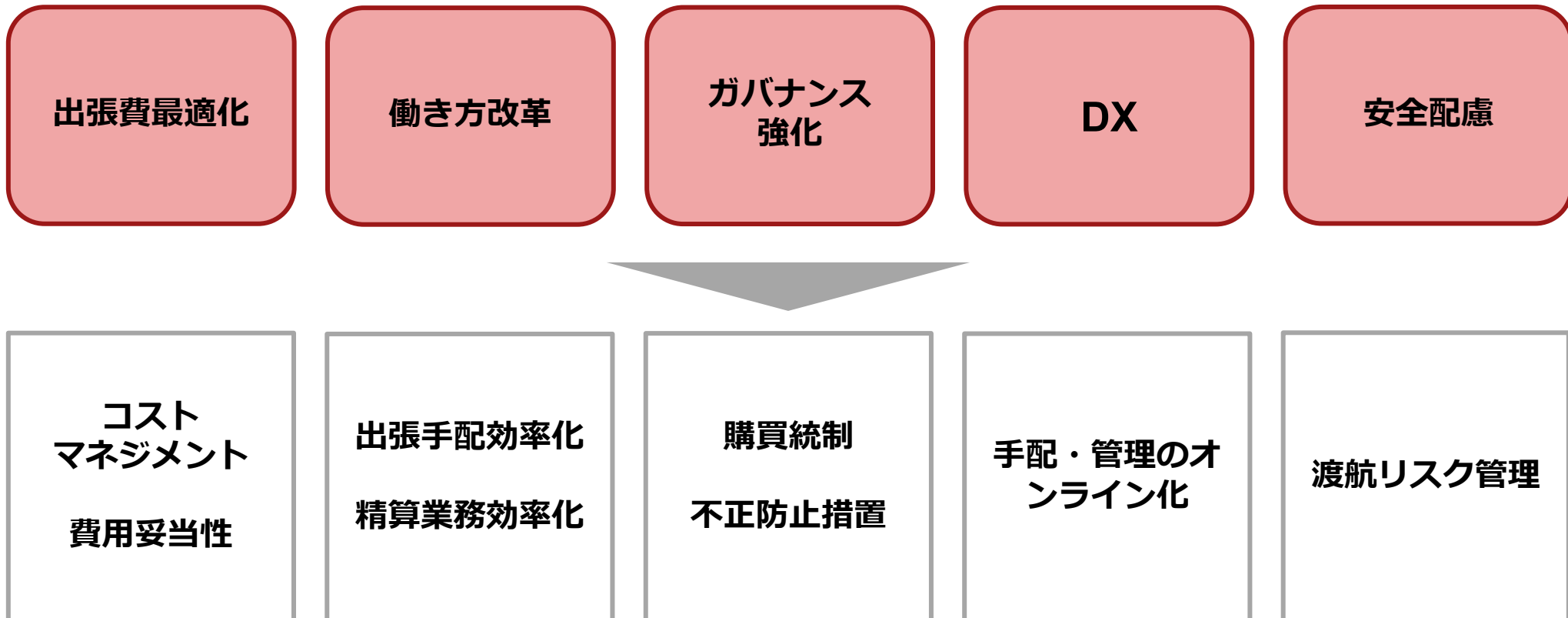
## 災害対策領域

- 災害対策システム
- 災害管理運営支援
- サプライチェーンマネジメントシステム
- サプライヤ管理運営支援

# 出張管理（BTM）とは

BTM（Business Travel Management）に必要なタスクや取り組むべき度合いは環境によって変わり続けていきます。

## いま重要な取り組み領域



## Part 1

---

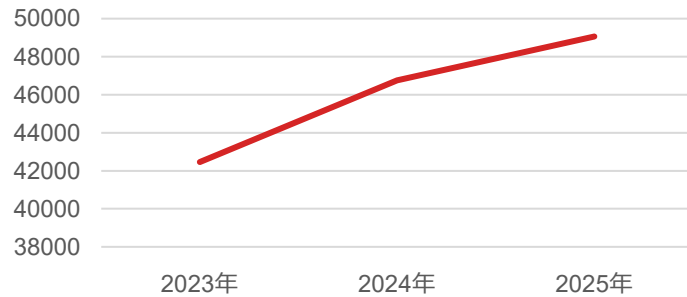
# コスト高環境では妥当性をどう担保するか

# 上昇し続ける出張コスト

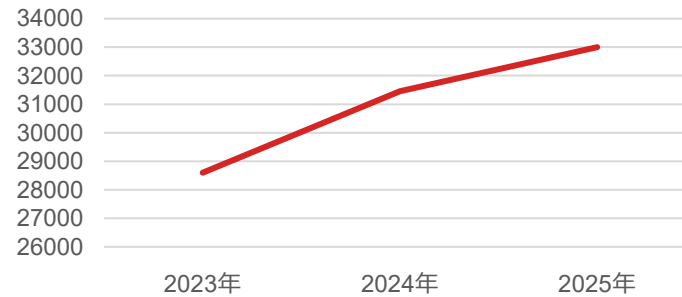
## ■ 国内航空運賃（公示価格）推移

**23年比 15%上昇**

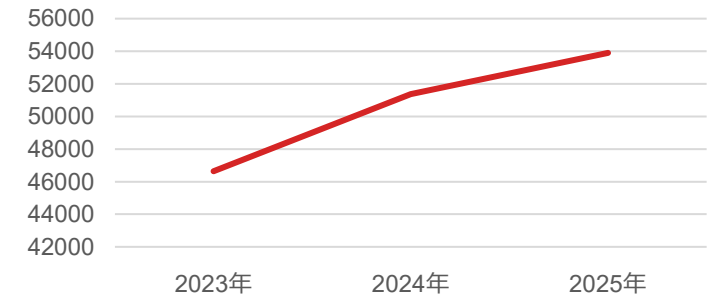
東京－札幌



東京－大阪



東京－福岡



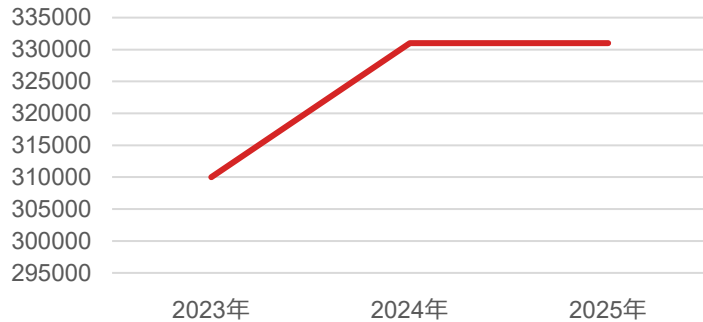
JALフレックス通常期

# 上昇し続ける出張コスト

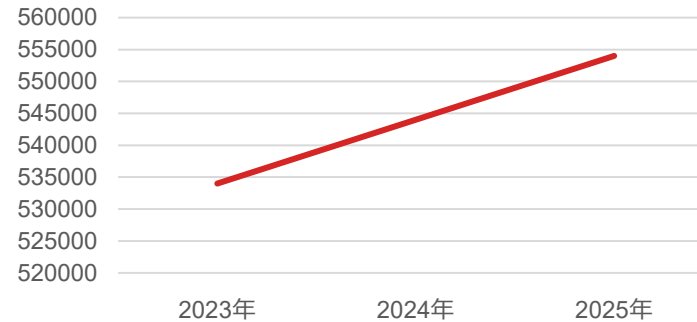
## ■ 国際航空運賃（公示価格）推移

**23年比 5%上昇**

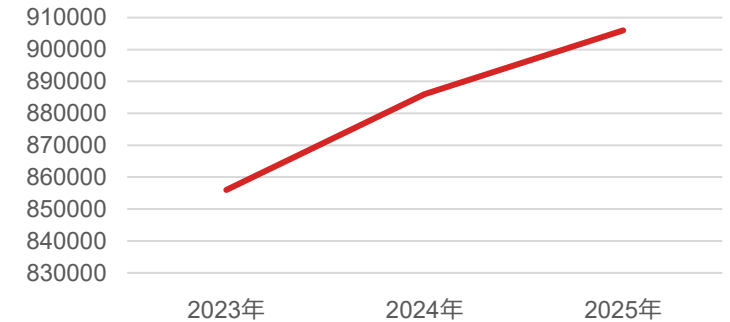
東京－上海



東京－シンガポール



東京－ロサンゼルス

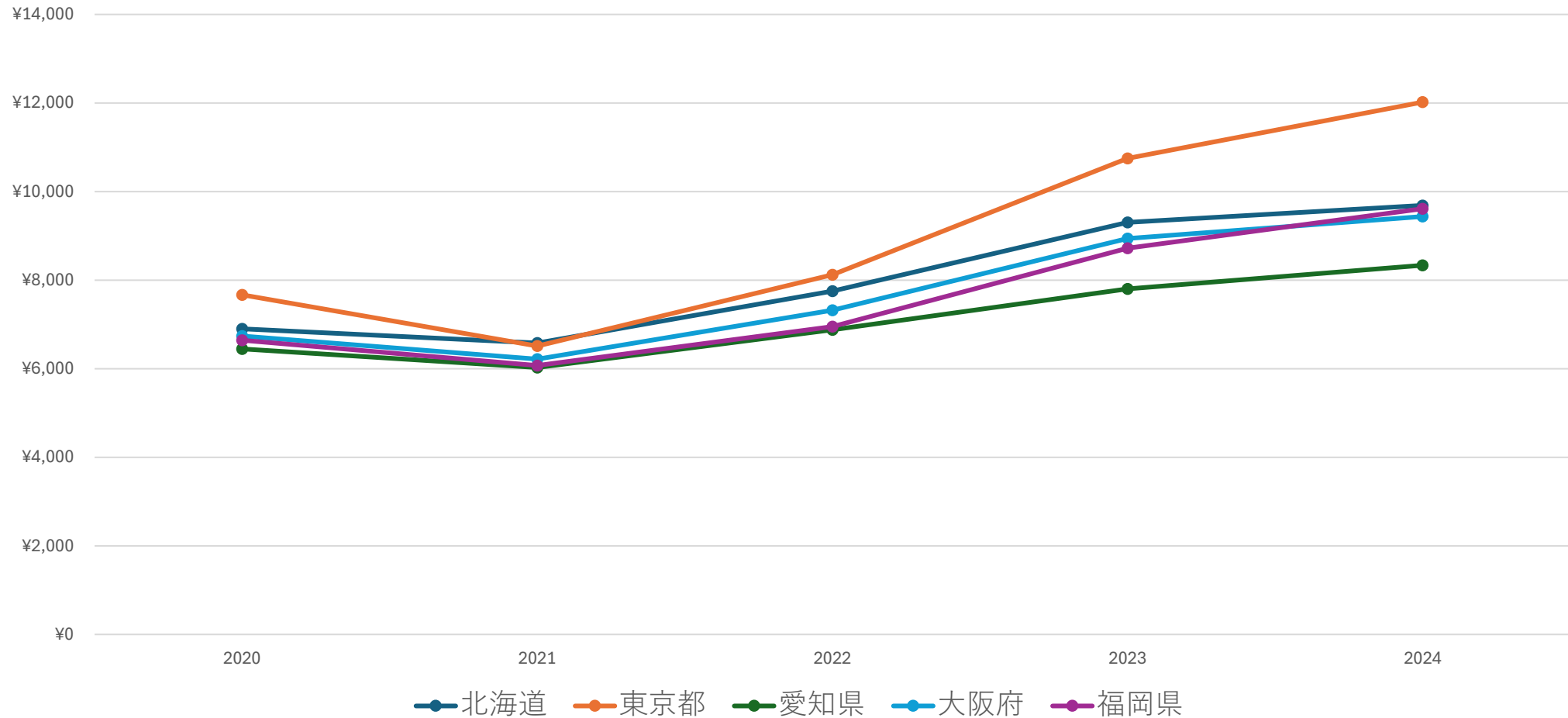


JALエコノミークラス平日

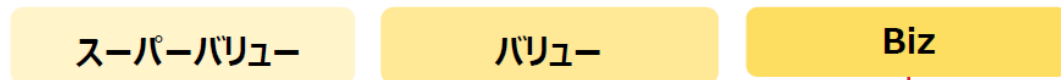
# 上昇し続ける出張コスト

■ 国内ホテル宿泊代（実費）推移

**20年比 30～55%上昇**



# 変化し続ける運賃体系



	スーパーバリュー	バリュー	Biz
予約購入期限	21～75日前まで	前日～7日前まで	当日
予約変更	不可	不可	無料
払い戻し	有料	有料	有料
事前座席指定	無料	無料	無料

利用傾向の変化  
の可能性



	シンプル オプションは最小限でお値段重視	スタンダード 基本的なオプションを網羅	フレックス 充実のフルオプション
予約購入期限	前日まで	前日まで	当日まで
予約変更	✖ 不可	✔ 有料	✔ 無料
払い戻し	✔ 有料	✔ 有料	✔ 有料
無料手荷物許容量	✔ 1個/23kg	✔ 2個/23kg	✔ 2個/23kg
事前座席指定	✖ 出発時刻 24時間前から可*1	✔ 無料	✔ 無料
アップグレード	✖ 不可	✔ 可	✔ 可

Biz
当日まで
無料
無料*2
2個/23kg
無料
可

■航空券の条件（変更/払戻可否）だけでなく、サービス（手荷物許容や事前座席指定）の選択肢も運賃に影響を与える。

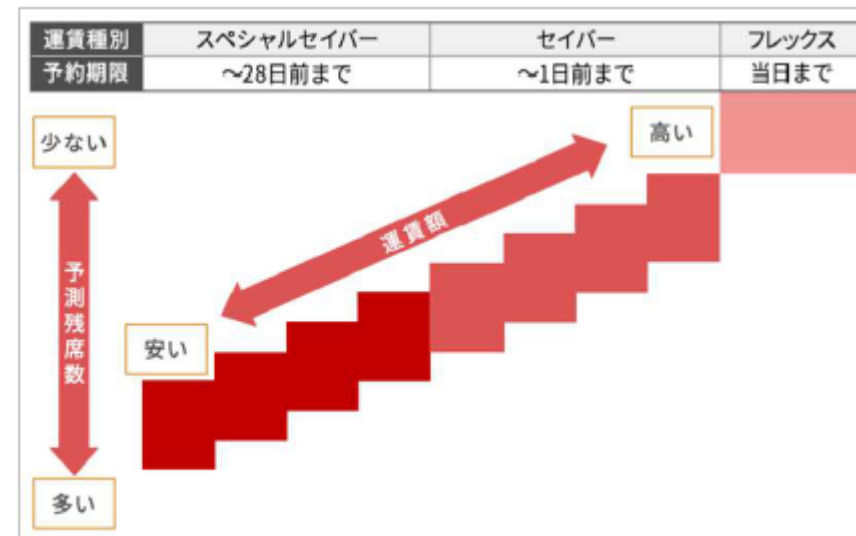
■割引 = 変更不可の構造から脱却し「有料だが変更可」という中間価格を設定（スタンダード）

■従来運賃Bizを多用していた場合、そのままBizを使い続けるとコスト増の恐れ

# 変化し続ける運賃体系

予約タイミングと条件別に約9種類あった運賃体系が4つに統合されシンプルな運賃体系となり、「いつ予約するか」が最重要だった考え方が、「どの条件が必要か」で航空券タイプを選択する考え方にシフトしています。

運賃種別	予約期限	予約変更*1	ディスカウント
> フレックス	当日	可	あり
> セイバー	1日前*2	不可	あり
> スペシャルセイバー	28日前	不可	あり
> 往復セイバー	1日前	不可	あり
> ビジネスフレックス ※JALオンライン専用	当日	可	なし



その一方で、現行運賃の最大の特徴は「**予測残席数連動型運賃**」  
(※予測残席数とは便や搭乗クラス毎の最終的な混雑具合の予測値)



- ・予約時に空席がある & 混雑しない予測であれば運賃は安い  
→運賃構成要素に空席状況が関係するため「早期予約」は考慮の必要あり
- ・予測結果が変動した場合、航空券購入後により安い運賃が出る場合もある

# そのコスト実績に妥当性はあるか

市場コスト上昇局面では、2通りに大別される

適正価格を掴めず、  
市場平均より高くなることも



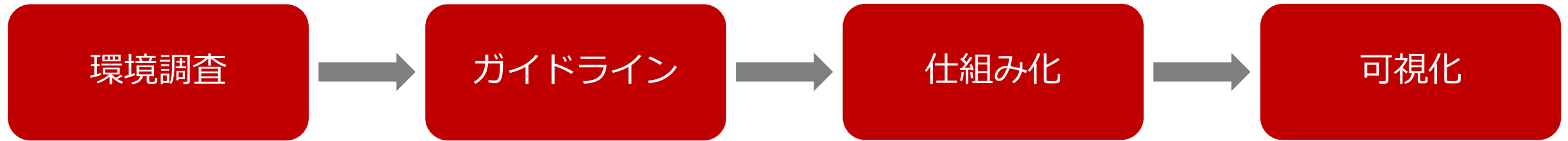
大きくコスト上昇

限られた適正価格のパイを掴む



小幅なコスト上昇（抑制）

# コスト妥当性を担保する仕組み



## <内部>

- 出張量の増減
- コスト増減
- 未来予測

## <外部>

- 運賃相場
  - 宿泊費相場
  - 航空会社レート
  - ホテルレート
  - テクノロジー
- など

- 出張手配に関する購買ガイドライン
- など

- ガイドラインの旅行会社連携
  - オンラインブッキングツールへの反映
- など

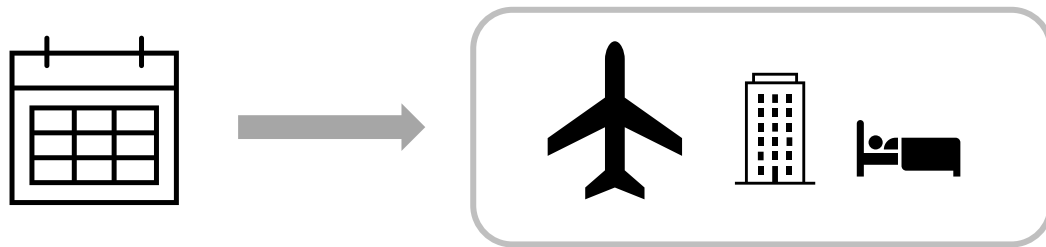
- 購買状況可視化
  - コスト分析
  - 業務効率分析
- など

# コスト上昇 or 抑制？ 出張手配パターンの違い一例

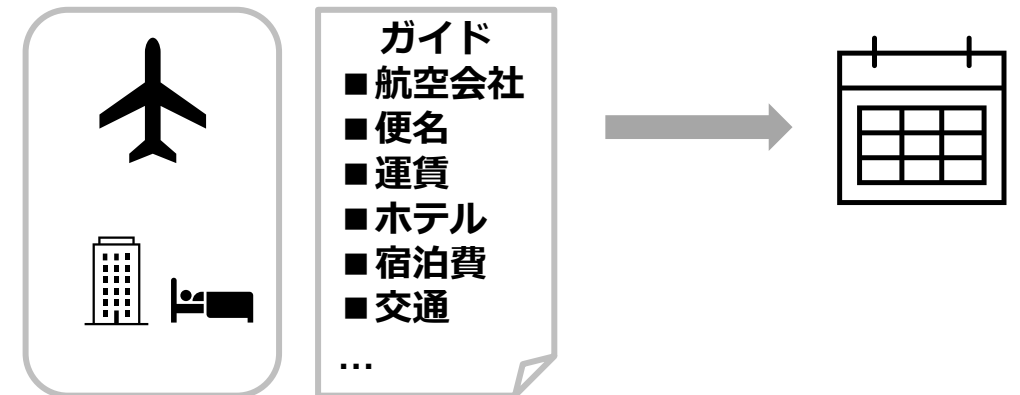
## 出張費は上昇し続ける

## 出張費削減・抑制が図れる

出張スケジュールが決まった後に手配



ガイドラインを参考に出張スケジュールを決める



手配が遅く、検索範囲が限定、高値掴みする可能性  
物価高・インバウンド増に比例して出張費も上昇

最適な手配方法に導き、コスト抑制を図る  
出張傾向とガイドラインの整合性は常にとる

## Part 2

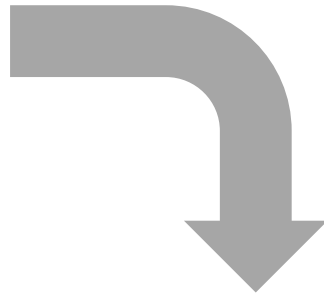
---

# 出張手配の利便性と業務効率性の追求

# 人手不足の旅行業界

コロナ以降の旅行会社減少

その数、3000社



回答が遅い・手配に時間かかる

サービス品質の低下

イノベーションが起こりにくい

# 相見積もりは必要なのか

必要とされる理由は、最適な価格とサービスを得て、  
費用の妥当性を図るため。

## 結論

手配都度の相見積もりは不要

数年に一度の手配サービス選定は必要

# 解決の糸口 海外出張手配はオンライン化



SAP Concur

## 出発便

東京、**JP (HND)** - シンガポール、**SG (SIN)** 出発日: 火曜日, 2026, 2月 24 [検索条件の編集](#)

全フィルタ ▼ フライト番号  検索 マトリックス ▼ 経由地数 ▼ 航空会社 ▼

↑ 推奨で並べ替え ▼ 詳細の表示

時刻 ▼ 条件 ▼ ポリシー ▼ Reset

61 フライトのうち 61 往復運賃には税と手数料が含まれます。追加の手数料が発生する場合、予約完了時に表示されます。

### 最適なフライト ?

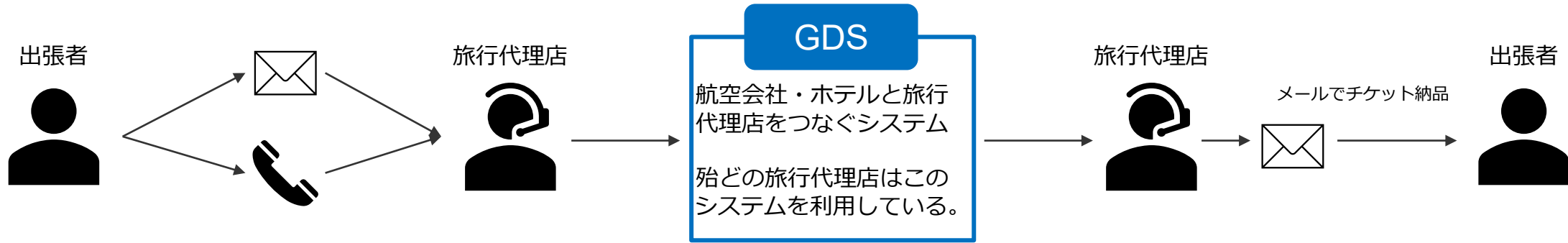
航空会社	クラス	特徴	往復運賃
All Nippon Airways	エコノミー	エコ   Value 1c ✖ 座席指定 (有料) ✓ 無料受託手荷物: 1 個 ⊖ 払戻不可	往復 ¥199,937
All Nippon Airways	エコノミー	エコ   Standard 2f ✖ 平均以上に足元が広い座席 ✓ 無料受託手荷物: 2 個 ⊕ 払戻には手数料が必要	往復 ¥209,837
All Nippon Airways	プレミアムエコノミー	Pey   Standard ✖ クレードル リクライニング ✓ 無料受託手荷物: 2 個 ⊕ 払戻には手数料が必要	往復 ★ ¥387,264
All Nippon Airways	ビジネス	Biz   Fullflex ✖ フルフラット座席 ✓ 無料受託手荷物: 2 個 ⊕ 払戻には手数料が必要	往復 ⚠ ¥573,478

✦ 推奨 497kg CO2e

UserAssistant

# オンライン手配の仕組み

## 従来



## オンライン



### 💡 Key

旅行代理店（ひと）を介さない。

= 仲介にかかる余計な費用や時間がかからない。  
営業時間外も手配できる。

# 国内宿泊手配はオンライン化一択 個人手配は排除へ



費用面	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
立替負担軽減	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
上限金額設定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
特定プランの排除 (クオカード付きなど)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

# ビジネストラベルマネジメント最後の要は、「分析検証→打ち手」

定点観測をおこない、不正防止と透明性確保を！  
外部環境も加味した分析検証がコスト妥当性に繋がる。

状況を見て成功例をピックアップ  
成功例はTipsなどで積極的に現場周知を。



どんなにより運用、よいシステム・仕組みを導入しても現場が未活用だと効果が現れません。  
論理と熱量でひとの意識・行動に働きかけていくチェンジマネジメントが重要です。

# まとめ

## ■ 渡航傾向と手配傾向を理解し、妥当性が担保できる手配フロー構築を

様々な交通機関、運賃種類が存在する出張は、その変化の波に乗ることを出張者個人に委ねるのは困難  
最適手配ができるフローを仕組み化しましょう。

## ■ テクノロジーは極力積極活用を

多くのシステムが存在する中、業務渡航に適さないものもあるため本質の見極めが重要  
出張手配にもAI進化が期待される中、ひとが手配するオールドオペレーションに戻ることは考えにくい。

## ■ 外部環境も加味した分析検証を

仕組み化だけでなく、可視化も同じだけ重要。常に出張実績をウォッチできる体制を作りましょう。  
コスト相場や民間企業の動きなど、外部環境も加味した分析検証が妥当性担保に繋がります。



本日はありがとうございました。

株式会社トップレップはTOPPANグループの一員です。



TOPREP CORP

〒105-0013

東京都港区浜松町2-6-2 浜松町262ビル

<https://www.toprep.co.jp>

**[ryuki.nishigahana@toprep.co.jp](mailto:ryuki.nishigahana@toprep.co.jp)**

**080-9353-6664**

(担当：西ヶ花 にしがはな)